

会員近況



電電公社中国電気通信局広島学園 **松尾 義明**

現在私は、社内教育訓練にたずさわっているが、つくづく思うのは最近のORは、いろんな問題を数学的モデルを使って解こうとすることを主としていることである。そのためあまり人気がない。

第1に数学が好きな人間というのは人間全体から見ればわずかな人数でしかないことを忘れていて、数学のきれいな人たちに高等な数学を使って解決案を示したところで何の関心も得られないばかりか嫌なヤツと見られる。社会生活というのは人間相互の感情のやりとりが中心であるから、問題も単純な選択と決断によって解決されることが多い。ORマンの地位向上という問題は、既存の数学的モデル手法では絶対解決できまい。

第2に、ほとんどの人はORは大学の先生と数学好きなヒマ人がやるものと決めている。そうあっても仕方があるまい。OR手法を使って人間の問題を解いた例が少なく役立つ例もあまり聞かない。いまこそ、人間の手法の開発が切に望まれているのではあるまいか。

創価大学経営学部 **山内 昭**

企業での実務から研究・教育の場が変わって十年余が経ち、現在の勤務先にきて5年が過ぎました。その間、教育の分野ではずっと文科の学生に対するコンピュータ教育にたずさわってきましたが、それらの学生にどこまで教えるかということがいつも問題になります。最近本学ではカリキュラム見直しの気運がおこり、コンピュータのほうでも教科目の予備チェックなどをしています。その1つにプログラミング言語教育の問題があります。従来から、本学では汎用言語についてはFORTRANをメインにし、必要に応じてCOBOLを添えるという姿勢をとっています。しかし周知のとおり、最近は一般にBASIC, PASCAL, APLなどが勢力を伸ばし、また構造的プログラミングも根をおろしてきました。学生に

教える時間は限られているわけで、データ・ベースとの関係もあってCOBOLはそのままおくとして、FORTRANをどう位置づけるか思案中というところです。

研究については、ORの側のものとしてはシステム・ダイナミクス(SD)の応用の領域を引き続き勉強しています。OR学会は、かつてSD研究部会をもち、わが国のSD研究に大きく寄与しておりますが、部会の活動の頃よりSD研究の蓄積は大幅にふえ、いろいろと新しいものも出てきている昨今ではないかと思えます。同学の士の、日常的で密なコミュニケーションの場がまたほしいものです。

動力炉・核燃料開発事業団 **小玉 陽一**

最近のマイコンの性能向上はいちじるしく、10年前は、大型コンピュータを使って1回のランに数千円かかっていたシステム・ダイナミクス・モデルも、今では、高性能マイコンのおかげで、強いて原価計算をすると10円ぐらいでラン可能となった。私のように、仕事のコスト・パフォーマンスがいつも気になる人種にとっては、まことにありがたき時代の到来である。それにしても、はじめは、大型コンピュータのTSS用言語として開発されたBASICが、マイコンブームで、かくもポピュラーな言語となろうとは、発明者のケメニーやカーツも予想し得なかったところだろう。

現在、私の机の上には、ハイレゾリューション・パックが入ったVIC-1001が置かれている。値段は、カセットが9時のグリーン・モニターと合わせても十数万円といったところか。

こんなマイコンでもPNC-DYNAMICSモデルの開発に十分役立っている。日常、頭に浮んでくるモデルの基本コンセプトをテストするには十分な機能をもっているからだ。

SE, SDそしてもう1つの分野にマイコンが威力を発揮し始めてから4年目になる。私は、いつの間にか、VICを含めて、数台のマイコンに囲まれ、それぞれの分野の生産性をたかめるために忙しい今日この頃である。

東京芝浦電気(株) 青梅工場副工場長 **岡本 行二**

オフコン・ミニコン・OA機器などの製造工場で主としてシステム製品やソフトウェア開発・製造部門を担当

しています。この数年ますますソフトウェアが重要な役割を果たす反面、ソフトウェア技術者の量的不足とコストの高騰に悩まされている。またハードウェアの製造面におけるVACD、生産性向上は重要な課題であり、かつ目ざましいものであるが、ソフトウェアの生産性向上は鉦や太鼓で騒がれている割には遅々として進まず、年間10%の生産性アップに四苦八苦。

このあたりで伝統的なORが役に立つのではないかと日頃の不勉強をなげきつつ、オペレーションズ・リサーチ誌をめくっている状況。ハードウェアにならって、ソフトウェアの量産化とコンピュータによる製造(CAM)や設計(CAD)も考えねばならないかとまわりに吹きまわっている。

一番の悩みは、吹いたり書いたりするだけでは済まない、実行でき実績が上がらねば何もならないということである。

(株)ヤクルト本社企画室 中村 義郎

オペレーションズ・リサーチという名前のカッコ良さにひかれ、学会に入会して3年近く経過しました。会社においては数学に強い人間であると自負しておりましたが、送付される学会誌はむずかしく、顔を出した研究部会では、錚々たるメンバーに圧倒され、借りてきた猫のようにおとなしくしています。しかしながら学会を通じて諸先生、諸先輩と邂逅したことは、私の人生において大きなイベントとなりました。

さて、入会当初は自分の会社にORを普及し、社内にOR担当部門を設置してやろうと意気込んで、それなりの試みをしました。ところが、仕事が忙しいのか、気力が失せたのか、能力がないのか、当初掲げた目標が雲霧消になってしまいました。さらに最近感じることは、あれやこれやとむずかしい数式をふりかざしても、相手が理解できなければ自己満足に終わること、人間関係や根回し、声の大きさが日本の企業社会では重要なこと、等々です。同じような考え、悩みをもった方々、ご一報ください。お互いに語り合いながら切磋琢磨していきましょう。

日本大学経済学部(本務) 阿部 喜三

約7年前から独協大学で「最適計画法」および「システムズ・エンジニアリング」の講義を担当しています。教科書として、前者は近藤次郎著「オペレーションズ・

リサーチの手法」、後者では宮川公男編「システム分析概論」を用いて週1回講義しています。独協大学経済学部は特に情報科学に重点を置いたカリキュラムを採用していますが、当初の計画どおりの展開にはいまだ不十分な現状です。

社会科学系の学生は一般に数理的手法は苦手で、出席率もあまりよくありません。もちろん、ORにせよ、SAやLP、DPなどでも学問の体系としての歴史は浅く、蓄積も少ない現状からみて中身の濃いダイナミックな講義内容を盛りこむのは無理だと自戒しつつも、日夜心を砕いています。小生二十数年間経済官庁に勤務後、学者へ転進したため、OR関係理論よりも現実社会への応用事例の研究こそ重要だと思っております。

伯野技術士事務所(自営、所長) 伯野 慶三

「ソフトウェアだけでは商売にならない」というのが日本での常識となっているためか、完全な個人コンサルタントを始めたしばらくの間は、まったく商売にならなかったものです。しかし、縁あってORを勉強させていただくことになってから、まったく様変わりにおもしろく、コンサルタント業ができるようになりました。電気工学で、学生から社会人をつづけているのですが、ORは仕事の種類や大小にはまったく関係がなく、どんな問題にでもアプライできるということが、1つの大きなメリットになっているようです。また、お客が私を信用して仕事を頼むというよりも、仕事をお客から強引にもらっても、確実に解答できるという自信(たぶん、うぬぼれでしょう)が私にできたからだだと思います。また、ORには作業の進め方に無理がないので(科学的にやっさえいればよいので)、身心にまったくストレスがかりません。不安がありません。おかげさまで、85才の今日でも、毎日忙しくして、病気ひとついたしません。ORさまさまの現在です。

トヨタ自動車工業 三木 淳
総合企画室

いつ頃入会したか覚えていないほど古くなりますが、もっぱらインターディシプリナリの知識吸収用としてのみOR誌を利用してきました。入会した頃は技術計算機およびマネジメントサイエンスを手がけていましたが、ここ8、9年は交通関連プロジェクトに従事しています。昨年のOR学会誌4月号に特集された自動車経路誘導シ

ステムに6~7年かかりきっていましたがこれも一段落し、現在はこれをさらに発展させる自動車の交通環境の情報化による社会経済性の向上につながる雑多なプロジェクトを手がけています。交通問題というものはほとんど八方塞がりのようなところがある反面、やる気になると、やらねばならないことが山のようにあります。交通需要分析手法については、従来いろいろの方法を試みてきていますが7月初旬のMITのセミナーで非集計モデルの話がきけますので、これを契機にこれを取り入れた地域交通改善を試みてゆきたいと思っています。

東北電力(株) 情報システム室 五十嵐 豊

コンピュータ部門転入以来15年、この道一筋といえ、かなり充実したもののように聞こえるが、創生・定着そして躍進期へと、標準化、教育・OR普及、システム設計、計画面など雑然と焦点ボケに打ち過ぎ、やや淋しい感じがしないでもない。さて、話変わって昨年11月初め、あるキッカケでそれまでのバスやバイクから徒歩通勤の止むなきにいたり、以来毎日4キロ42.3分の道のりを

往復している。ルートはメインが2通り、サブルートがそれぞれ2~3通り以上ある。この道路・環境条件をくくると、AはBより10%短いが、交通信号や道路横断の数が8箇所ほど多く、したがって待ち時間の問題もあり、歩道もやや不備で車や人の交通量もかなり多い。しかし、屋根つき歩道や家並みも多いため、雨や雪、暑い日射しを避けられるという安心感がある。また、50m幅の定禅寺大通りの空を覆う榲並木の美しさ、七夕で賑う仙台一の繁華街一番町や夜の歓楽街飲み屋街国分町界限を歩けば、生々しい表と裏の景気の動向予測や夜への探索もできるというメリットもある。一方、Bは市内を蛇行する清流広瀬川に懸かる長い橋を2本も渡り、歩道も広く、緑も多く春には二高の桜並木、西公園のしたれ桜、鶯が歌い燕が飛び、まさに爽快な朝の散歩道といえる。さて、目的関数にもよるが、安全性・快適性・気象上の危険率、40分の善悪度などの要因を考えれば、果して最適ルートはいずれか？朝の5分は貴重ではあるが、健康面を考えれば省エネの問題ではなさそう。ORか行動科学か、いや心理学の問題か？歩きながらの思考では収斂への道は遠い。正解へのアプローチをご教示ください。因みにAの最短コースで4.1km、5300歩です。

会合記録

- ()内は出席者数
- 理事会 9月1日(火)(16)
- 編集委員会(OR誌) 9月2日(水)(7)
- IAOR委員会 9月4日(金)(2)
- 編集委員会(論文誌) 9月24日(木)(5)
- 研究普及委員会 9月25日(金)(13)
- 第2回理事会議題(9月1日)
- 第1回理事会議事録の承認
 - 入退会の承認
 - 表彰委員会委員の推薦
 - 事務室の共益費値上げについて
 - 会費値上げに係る定款の一部改訂について
 - 国際関係報告

- IFORS 国際会議代表者会議ならびに参加報告
- 視察団報告

1981年11月号

7. 研究普及関係報告

- 秋季研究発表会の準備状況
 - 第3期モニターの委嘱
 - 第2回ORセミナー開催要領
 - 月例講演会の予定
 - 他学協会よりの協賛依頼
- 第9回「計測と制御におけるミニコンとマイクロコンピュータ講習会」
 - 第32回自動制御講習会「シーケンス制御の現状」
 - 第5回ビーグル・オートメーション・シンポジウム
- OR誌購読者名簿
 - その他

入退会

(56.6.17~56.9.1)

●入会(正会員)

- 浅見 勇 (株)ケー・ジェー・ビー・エー
- 伊藤 周二 東亜燃料工業(株)
- 王 義孝 (株)日本科学技術研修所

木村 征児 (株)コンピュータ・アプリケーションズ

- 小林 久和 広島大学
- 菰田 保夫 東北大学
- 桜田 一之 東京工業大学
- 薩摩林俊彦 (株)富士銀行
- 芝山 龍一 北海道電力(株)
- 富田 英雄 日本電信電話公社
- 内藤 昭 芝浦工業大学
- 浜本三千夫 (財)地方自治情報センター

- 原田 孜 東北電力(株)
- 樋口道之助 横浜国立大学
- 藤代 侑宏 東京理科大学
- 星野 直彦 (株)河電機製作所
- 堀尾 正彦 住友重機工業(株)
- 丸林 哲也 大阪府
- 宮元 敏男 川崎重工(株)
- 八巻 直一 東京理科大学
- 横溝 彰 (株)損害保険料率算定会
- 李 康雨 釜山水産大学